

【3】学年、各部、各教科の努力目標並びに活動計画

南風原高等学校

1. 学年部

(1) 1 学年

①努力目標

- ア 基本的な生活習慣の確立。
- イ 授業規律を確立し、基礎学力の定着を図る。
- ウ 高校生活が夢を育てる場であることを自覚させ、進路意識の高揚を図る。
- エ 自主的な清掃活動と学習環境の整備に努める。
- オ ホームルーム活動の充実を図り、クラスの和を深める。

②主な活動計画

- ア 学年集会を定例化し、学年の連帯意識を強める。
- イ 授業中の携帯、飲食、私語、居眠りのない授業実践を目指す。
- ウ 他学年と連携し、足並みを揃えて、遅刻・欠課・欠席・身なり指導等に取り組む。
- エ LHR や総学などの時間を活用してキャリア学習を取り入れ、将来の進路に向けた意識づくりを行う。
- オ 教室内の美化に努め、清掃活動を徹底する。
- カ ホームルーム行事を充実させ、クラスの結束を図る。
- キ 各部・各係・担任間の連携を密にし、学年体制を強化して諸課題解決に取り組む。
- ク 保護者との連携を密にし、情報交換に努める。

(2) 2 学年

①努力目標

- ア 基本的な生活習慣の確立。（勤怠・身なり・授業態度の指導）
- イ 社会性・人間性の育成。
- ウ 美化意識の高揚と、清掃指導の徹底。
- エ 基礎学力の定着を図るとともに、生徒の学習意欲の高揚。
- オ ホームルーム単位による結束力と生徒の帰属意識の向上。
- カ 授業規律の確立。
- キ 早期の進路目標の決定。

②主な活動計画

- ア 学年集会を定例化し、学年団としての連帯意識を浸透させる。
- イ 他学年と連携し、統一感を持った指導（勤怠・身なり・授業態度・言葉遣い）を行い、生徒の良識を育む。
- ウ ゴミの分別を徹底し、校内外を問わず自主的な美化意識の高揚を図る。
- エ 生徒1人1人の課題や問題の早期解決を目指すための職員による学年室の活用を図る。
- オ 個々の進路に対する目標を明確にするための学年集会や講話を持ち、進路指導部と連携し早期の進路目標の決定に活かす。
- カ 生徒が学年行事、学級行事に積極的に参加したくなるように、LHR を有効に活用する。
- キ 保護者との連携を密にし、配布物等を通して、情報共有を図る。
- ク 各部・係・副担任・教科担任との連携を密にし、情報の伝達の円滑化を図る。
- ケ 教育相談係との連携を強化し、いじめや中退等についての予防的生徒指導を実践する。

(3) 3 学年

①努力目標

- ア 一人一人にあった進路指導を行い、進路の早期決定を目指す。
- イ 学習意欲の向上をはかり、さらなる学力向上を目指す。
- ウ 基本的な生活習慣と美化意識を確立するとともに、自主性を育てる。
- エ HR の和を大切し、他者への共感的理解を示す態度を育成する。
- オ PDCA サイクルの定着を図り、主体的・能動的に取り組む態度を育成する。

②主な活動計画

- ア 進路部との連携を密にし、主体的な進路の早期決定を目指す。
- イ 全単位修得しての卒業を目指して、継続的な指導に努める。
- ウ 日々の清掃活動をとおり、美化意識向上・校内美化に努める。
- エ 関係職員・分掌との連携した勤怠・身なり指導等を通し、規範意識の向上を図る。
- オ HR 活動の充実を図り、各種行事に積極的に関っていく意識作りに取り組む。
- カ 学年会・学年集会の定例化によって、学年会での意思統一、事前・事後指導の充実を図る。
- キ 担任・教科担任・各部・保護者との情報交換を積極的に行い問題行動未然防止に努める。

2. 各 部

(1) 教務部

①努力目標

教育目標に沿って、郷土の文化を愛し、知・徳・体の調和の取れた創造性に富む人間性を養うため、生徒の自主・自律・創造性を生かした学校行事を企画し、各部・各学年・各教科と連携する。

②主な活動計画

- ア 行事を精選し、授業時数の確保に努める。
- イ 職員会議・学年会・部会等を定例化し、連携を図る。
- ウ 各教科担任、HR 担任、学年主任と連携して学力の向上を図るとともに、単位保留者の追認考査の実施及び単位取得に向けた指導に努める。
- エ 内規の整備に努める。
- オ 南風タイムを実施し、生徒自身の在り方・生き方の向上を図る態度を育てる。
- カ 公簿の記入要領の徹底と整備に努める。
- キ 各種委員会・各会議の効率化を図り、職務内容の改善に努める。
- ク 共有データの作成、新進路相談支援システムを用いて学級経営・成績処理が円滑に行えるよう努める。
- ケ 情報室内の情報機器の管理・校内 LAN の保守運用に努める。

(2) 進路指導部

①努力目標

- ア 早期の進路目標設定を促し、進路決定を目指す
- イ 保護者・担任と連携した進路指導
- ウ 主体的な進路活動ができる能力の育成

②主な活動計画

【早期の進路決定に向けて】

- ア 進路希望調査の実施
- イ 進路講演会等の実施
- ウ 各種進路資料の提供
- エ 進路資料室活用の呼び掛け・利用指導
- オ 生徒用手帳の活用

【保護者・担任との連携強化】

- ア 3 学年会との進路検討会の実施
- イ 保護者への奨学金等の説明会実施
- ウ 三者面談資料の提供

【主体的な進路活動に向けての支援】

- ア 各種講座の実施（早朝・放課後、夏期講座等）
- イ 模擬試験の実施
- ウ 実力テストの実施
- エ 模擬面接・就職支援の実施（3 学年と連携）
- オ 奨学金制度の紹介・手続き指導
- カ 就職・進学相談会への参加

(3) 図書広報部

① 努力目標

- ア 読書活動や芸術鑑賞を通して豊かな人間性を育む。
- イ 図書館を活用した教育活動を促進する。
- ウ 図書館主催の行事を充実させ、読書活動の推進につなげる。
- エ 蔵書や視聴覚機器・教材の充実を図り、教育環境を整備する。
- オ 学校 HP の定期的な更新により、広報活動を充実させる。
- カ 地域や中学校への広報活動を積極的に行い、次年度入試の志願者増をめざす。
- キ 保護者との連携を密にし、PTA 活動の活性化を図る。
- ク 各部との連携を密にし、業務内容の精選・整理を行う。

② 主な活動計画

- ア 蔵書を充実させる。
- イ 図書館を利用した授業や教育活動を支援する。
- ウ 図書委員会を活性化させ、平和資料展や読書月間を企画・運営する。
- エ 図書館便りや学校文集を発行する。
- オ 電子黒板や視聴覚機器及び視聴覚教材を充実させ、説明会等を通して活用を支援する。
- カ HP 更新や学校紹介ビデオ、パンフレット、掲示板、懸垂幕を活用して広報活動を行う。
- キ 学校説明会を開催する。
- ク 芸術鑑賞会の企画・運営を行う。
- ケ PTA 入会式や PTA 総会、同窓会入会式、PTA 評議員会等を企画・実施する。
- コ PTA 新聞を発行する。

(4) 生徒指導部

① 努力目標

- ア 基本的な生活態度を身につけ、望ましい人格形成をめざす。
- イ 社会、学校のルールを守り、社会、学校生活に適應できる人間を育てる。
- ウ 責任感、忍耐力を養い、自制心のある人間を育てる。
- エ 好ましい授業態度を養い、自発的に学習できる人間を育てる。

② 主な活動計画

- ア 勤怠指導、身なり指導を行う。
- イ 生徒会・部活動を奨励する。
- ウ 交通安全の意識高揚を図る。
- エ 行事、その他必要に応じて校内巡視を行う。

(5) 環境保健部

① 努力目標

- ア 清掃活動の徹底をはかり、美化活動の推進
- イ 校内緑化の推進及び美化委員会活動の充実
- ウ 学級担任、養護教諭、生徒指導部及び保護者との連携、教育相談活動
- エ 利用しやすい相談室の環境づくりと各種調査による生徒の実態把握
- オ 特別支援教育の啓発、推進
- カ 企画・施設管理、広報、渉外等

② 主な活動計画

- ア 日々のごみ分別指導
- イ 清掃点検
- ウ 清掃分担区割り振り
- エ 校内の緑化計画
- オ 全体清掃計画
- カ 学校行事時の清掃計画実施
- キ 健康診断の実施と事後指導
- ク 保健講話の実施
- ケ 担任と連携し、必要な生徒の教育相談を行う。
- コ 懲戒・訓告等の指導を受けた生徒の面談指導を必要に応じて行う。
- サ 教育相談や生徒理解のための職員研修を実施、教育相談情報を提供する。
- シ 特別支援教育対象の生徒の共通理解を図るために、学級担任、教科担当が連携して個別の指導計画を作成する。
- ス 防災訓練の運営補助

(6) 事務部

① 努力目標

本校の教育目標達成のため、事務室の機能を最大限に発揮できるよう、相互に研鑽を深めながら職務に当たる。

② 活動方針

- ア 高等学校等就学支援金及び奨学のための給付金制度の周知を行う。
- イ 授業料の期限内納入を周知する。
- ウ 迅速且つ正確な情報伝達を行う。
- エ 事務作業の方法を工夫し、事務の合理化を図る。
- オ 各分掌との連携を密にし、計画的で円滑な事務運営を行う。
- カ 計画的、効率的な予算執行を行う。
- キ 高等支援学校開校に伴う施設・設備の中長期的視点での活用を図り、上部機関へは学習環境の整備要求(予算要求)を行う。

3. 各教科

(1) 国語科

① 努力目標

- ア 授業規律を確立し、基礎学力の定着を図る。
- イ 目的や場に応じて、論理的に話したり書いたりする能力を育成する。
- ウ 小論文指導に取り組み、進路決定を支援する。

② 主な活動計画

- ア 「常用漢字ダブルクリア」の活用と漢字検定取得の奨励
- イ 校内弁論大会に向けての意見文指導
- ウ 校内感想文コンクールの実施（図書館との共催）
- エ 早朝講座・課外講座の実施

(2) 地理歴史・公民科

① 努力目標

- ア 授業規律を確立し、基礎基本の徹底を図る。
- イ 歴史的思考力を培い、国際社会で主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
- ウ 良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。
- エ 沖縄に生きる者としての自分自身のアイデンティティの確立を図る。

② 主な活動計画

- ア 学習指導の工夫、教材の精選、教育機器の活用に努める。
- イ 早朝講座、課外講座の実施
- ウ 研修を企画し、実施する。
- エ 教科備品の充実と有効活用を図る。
- オ 地域教材を導入する。

(3) 数学科

① 努力目標

基礎・基本の定着を図り、数学的な考え方や必要な知識・技能を身に付けさせる。

② 主な活動計画

- ア 授業内容の精選及び指導の充実
- イ 学習態度の確立
- ウ 習熟度別授業（少人数）の実施
- エ 早朝・課外講座の充実
- オ 数学検定の実施

(4) 理科

① 努力目標

- ア 基礎学力の定着を図る。
- イ 身のまわりの科学的現象を捉える思考力を養う。

② 主な活動計画

- ア 学習指導の工夫、教材の精選、教育機器の活用に努める。
- イ 実験・実習の充実を図る。
- ウ 備品・消耗品の充実を図る。
- エ 教育環境の整備。
- オ 4分野（物理・化学・生物・地学）の情報交換・研修の推進。
- カ 理科職員の野外研修実施。

(5) 保健体育科

① 努力目標

- ア 「保健」「体育」を通してけじめある規則正しい生活習慣の重要性を理解させる。
- イ 生徒の実態に応じた運動技能を習得させ、自ら運動に親しむ習慣を身につけさせる。

② 活動方針

- ア 日常より生徒観察を行い、気づいたことがあればその場で指導するよう心がける。
- イ 他の職員や保護者と連携を図り、自主・自律を重視した生徒の取り組みを支援する。
- ウ 安全に留意し、生涯において運動に親しみ自分の健康は自分で守る能力を育てる。
- エ 互いに助け合い、高め合い、安全を確保し、公正・協力への意思を持てるようにする。

③ 主な活動計画

- ア 全学年選択制授業を行う。
- イ 集団行動・体づくり運動を充実させる。
- ウ 体力向上のために持久走及び水泳の授業を充実させる。
- エ 保健の授業を通して生活習慣病・飲酒・喫煙・薬物乱用・交通安全・応急手当・性教育など現代的課題の学習の充実を図る。

オ 新体力テストを通して自己の体力・運動能力を確かめ、さらなる向上を目指す機会とする。

(6) 保健体育・芸術〔郷土文化〕

① 努力目標

- ア 郷土の文化や歴史に興味・関心を持ち、郷土文化の継承・発展・研究に努める人材の育成を図る。
- イ 沖縄県の芸術・文化を担う地域社会の形成者と国際性豊かな人材の育成を図る。
- ウ 礼節を学び、規律ある生活態度を養い、自ら学ぶ意欲を育てる。

② 主な活動計画

- ア 郷土文化に関する科目の選択授業の実施。
- イ 歌碑巡りや校外実習の実施及びコース制施行25周年記念公演の実施。
- ウ 系統的な指導を行うため、コース集会を行う。

(7) 芸術科

① 努力目標

- ア 芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、豊かな情操を養う。
- イ 授業規律を確立し、芸術における基礎学力の定着を図る。
 - 音楽 ・多様な音楽活動を通して、表現意欲の向上や演奏技術の伸長を図る。
 - ・身近にある音楽やその他の幅広い音楽の表現活動・鑑賞活動を通し、音楽文化への理解を深めるとともに尊重する態度を養う。
 - 美術 ・表現活動の複数分野と鑑賞活動を幅広く学ぶ。基礎知識・技術の習得を通し心豊かに主題を追求する態度を養う。
 - ・美術・工芸などの鑑賞活動を通し、美術文化についての理解を深める。
 - 書道 ・古典の学習や多様な表現活動を通して、表現と鑑賞の基礎的能力を伸ばす。
 - ・日常生活における書への関心を高め、書の伝統と文化について理解を深める。

② 主な活動計画

- ア 芸術科発表会の実施
- イ 課外講座（進学及び検定に関する）の実施

(8) 外国語科

英語

① 努力目標

- ア 基礎学力の定着化
- イ 総合的コミュニケーション能力の育成
- ウ 積極的な異文化理解の推進
- エ ALT とのチームティーチングの活性化
- オ LL 教室の効果的活用
- カ 英語検定取得の奨励

② 主な活動計画

- ア 単語テストや小テスト等の実施
- イ コミュニケーションを重視した授業への取り組み
- ウ 生徒が英語に興味・関心を持ち、意欲的に学び、世界へ目を向ける授業作りの確立
- エ 各種コンテスト（スピーチコンテスト、スキットコンテスト、校内英語発表コンテスト、校内英語俳句コンテスト等）への積極的な参加
- オ CALL システム、図書館の授業での活用
- カ 英検の校内実施と対策

(9)家庭科

①努力目標

- ア 家庭生活の形成者として、生活に必要な基礎的、基本的な知識・技術を身につけさせ、主体的に判断し、行動できる能力を育てる。
- イ 楽しくわかりやすい授業・実習を実践する。
- ウ 施設・設備の充実を図る。

②主な活動計画

- ア 楽しくわかりやすい学習指導の研究
- イ 教材・教具の製作及び効果的活用
- ウ 家庭クラブ活動の充実向上（家庭・地域との連携）

(10)情報科

①努力目標

- ア 情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識や技能を身につけさせる。
- イ 情報活用のルールやマナーの修得、コミュニケーションにおける実践的態度を養う。

②主な活動計画

- ア 基礎基本の徹底
- イ 情報の活用について、ルールやマナーの意味を正しく理解させ、正しく活用ができるよう考え方や態度を育成する。
- ウ 機材や施設を利用する際のマナーの指導。

(11)商業科

①努力目標

- ア 商業の各分野に関する基礎的、基本的な知識と技術を習得させ、経済社会に役立てる能力と態度を育てる。
- イ 各種資格・検定の取得を積極的に推進する。

②活動計画

- ア 学習意欲を高め、各種検定を積極的に受験させる。
- イ 検定対策講座を実施する。
- ウ ビジネスマナーを身につけさせる。
- エ 中学校へ向け教養ビジネスコースの広報活動を行う。

南風原高等支援学校

1. 各教科、各領域の指導の重点

(1) 各教科の目標及び内容

① 国語科

生活に必要な国語の能力を高め、思考力や想像力、表現力を伸ばし、心情を豊かにして言語生活の向上を図る。

ア 目的や場面に応じ、日常生活に関わることなどについて構成を工夫して話す能力や話し手の意図を考えながら聞く能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えをまとめようとする態度を育てる。

イ 目的や意図に応じ、日常生活にかかわることなどについて構成を考えて的確に書く能力を身につけさせるとともに、進んで文章を書いて考えをまとめようとする態度を育てる。

ウ 目的や意図に応じ様々な文章を読み、内容や要旨を的確に捉える能力を身につけさせるとともに、読書を通してものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。

② 社会科

社会の様子、働きや移り変わりについての関心と理解を一層深め、社会生活に必要な能力と態度を育てる。

ア 個人と社会の関係が分かり、社会の一員としての自覚をもつ。

イ 地図や各種の資料などを活用し、我が国のいろいろな地域の自然や生活の様子、社会の変化や伝統を知る。

ウ 郷土や国の文化・歴史を通して、国際社会における日本の地域的特色や役割を理解する。

エ 政治、経済、文化などの社会的事象や情報メディアなどに興味や関心を深め、生産、消費などの経済活動に関する事柄を理解する。

オ 公共施設や公共物などの働きについての理解を深め、それらを適切に利用する。

カ 社会の慣習、生活に関係の深い法や制度を知り、必要に応じて生活に生かす。

③ 数学科

生活に必要な数量や図形に関する理解を深め、それらを活用する能力と態度を育てる。

ア 生活に必要な数量の処理や計算をする。

イ 長さ、重さ、量などの単位関係や測定方法を理解し、活用する。

ウ 時間の表現や単位関係、計算方法を理解し、行動の見通しをもつ。

エ 様々な図形、表やグラフを理解し、生活の中で工夫して使う。

オ 金銭の取扱いについて学び、様々な料金の支払いができるようになる。

④ 理科

日常生活に関係の深い自然の仕組みや、働きについての理解を深め、生活に必要な基礎的知識や態度を身につける。

ア 人の体の主な仕組みや働き、生命の大切さについて理解する。

イ 健康と環境のかかわりについて関心をもつ。

ウ 身の周りの物質やその性質について理解する。

エ 自然の事物・現象についての理解を図るとともに、自然と生活との関係を理解する。

⑤ 音楽

表現及び鑑賞の能力を伸ばし、音楽活動への意欲を高めるとともに、生活を明るく楽しいものにする態度と習慣を育てる。

ア いろいろな音楽の美しさを味わいながら鑑賞する。

イ 旋律楽器や打楽器などに親しみ、その演奏の仕方に慣れ、独奏や合奏をする。

ウ 歌詞の内容を感じ取り、独唱、斉唱、二部合唱などをする。

⑥ 美術

造形活動によって、表現及び鑑賞の能力を高め、豊かな情操を養う。

ア 経験や想像をもとに様々な技法などを用いて創造的に描いたり、つくったり、飾ったりする。

イ いろいろな材料の性質や用具などの扱い方を理解し、適切に使う。

ウ 自然や優れた造形品を観賞し、美しさなどを味わうとともに、地域の伝統工芸に関心を持つ。

⑦ 保健体育科

いろいろな運動の経験や健康・安全についての理解を通して、体力の向上と心身の調和的発達を図り、社会人として明るく豊かな生活を営む態度と習慣を育てる。

ア 健康な生活を送るため、規則を守り、互いに協力し、安全に留意しながら運動する。

イ 健康・安全および、性に関する基礎的・基本的な事柄を学習する。

ウ 生涯スポーツを見据え、いろいろなスポーツ、ダンス等の運動を通して、将来仕事をしていくうえで必要な体力を高める。

⑧ 書道

ア 書写学習を通して、基礎となる楷書・行書を学ぶ。

イ 臨書を通して、表現力と鑑賞力を高め、創作の喜びを味わう。

ウ 書を身近なものとして、積極的に生活の中に取り入れる態度を養う。

⑨ 郷土文化

沖縄の文化(琉球舞踊、エイサー、三線、空手、古武道)の基本的な所作を学ぶことにより、郷土の文化や歴史に興味・関心を持つ心情を育てるとともに、自ら学ぶ意欲、態度を身につける。

ア 沖縄の音楽に親しみ、基本的所作を習得する。

イ 郷土の文化を通しコミュニケーション能力の向上と、豊かな人間関係の形成を図る。

ウ 郷土の文化や歴史に興味・関心を持ち、自主的に学ぶ意欲と態度を身につける。

⑩ 家庭科

明るく豊かな家庭生活を営む上で必要な能力を高め、実践的な態度を育てる。

ア 被服、食物などに関する実習を通して、生活に必要な実践的な知識と技能を習得する。

イ 家庭の機能や家族の役割について理解を深め、楽しい家庭づくりのための生活設計について関心をもつ。

⑪ 情報

情報機器の操作の習慣を図り、生活に必要な情報を適切に活用する基礎的・基本的な能力や態度を身につける。

ア 日常生活の中で情報やコンピュータ、携帯端末等の情報機器が果たしている役割を知り、それらの活用に関心をもつ。

イ コンピュータや携帯端末機器等の情報機器の適切な扱い方が分かり、操作する。

ウ 情報の取扱に関するきまりやマナーを理解し、情報を自己の目的に適合するように使用できる能力を高め、「情報を使いこなす力」を身につける。

エ 事務系業務に関する情報機器等の基本的な使い方を身につける。

(2) 専門教科の目標及び内容

① 流通・サービス

流通やサービスに関する基礎的・基本的な知識と技術の習得を図り、それらの意義と役割の理解を深めるとともに、流通やサービスに関する職業に必要な能力と実践的な態度を育てる。

・ オフィス実務

ア 学習意欲を高め、ビジネス文書実務検定、電卓検定を積極的に受検する。

イ 場面に応じた適切な接客方法、ビジネスマナーを身につける。

ウ 仕入れから販売までの流れを学習する。

・ トータルクリーニング

ア 清掃に従事する職業人としての基本的な態度や心構えについて学習する。

イ 清掃に必要な用具や業務用機械等を使って、基本作業の技術を身につける。

ウ 共同作業や役割分担を通して安全に作業する態度・責任感・忍耐力を養う。

エ 能力に応じた技能検定の等級の取得を目指し、トータルクリーニングで通常有すべき技能、及びこれに関する知識を身につける。

② 農 業

農業や園芸に関する基礎的・基本的な知識と技術の習得を図り、それらの意義と役割の理解を深めるとともに、農業を通して職業に必要な能力と実践的な態度を育てる。

・ 農園芸

ア 農業や園芸に関する基礎的・基本的な知識と技術について学習する。

イ 農具や簡単な機械の操作に必要な知識と技術を習得し、安全に実習する態度を養う。

ウ 栽培した野菜の調理やいろいろな植物を生活の中に取り入れるなど健康で豊かな生活を送る態度及び就労意欲を養う。

エ 商品の生産(実習)から消費(販売等)に至るまでの流通に関する仕組みを体験的・実践的に習得する。

・ 食品加工

ア 食品加工における概要、衛生管理、食品の包装、販売等に関する基礎的・基本的な知識と技術の習得を図る。

イ 食品加工の実習に必要とされる用具や機械等の取扱いや、身支度、実習の準備、後片付け等の技術を習得し、作業態度や意欲等の職業生活に必要な諸生活能力を高める。

ウ 能力に応じた技能検定の等級の取得を目指し、カフェ、喫茶に関する接客マナーの知識及び技能を身につける。

エ 商品の生産(実習)から消費(販売等)に至るまでの流通に関する仕組みを体験的・実践的に習得する。

(3) 各領域

① 道 徳

道徳教育は、各教科等を合わせた指導であるキャリアガイダンス、その他の学習活動および体験活動を通して、自分自身の在り方、生きかたについて考え将来にわたって主体的に生きる態度や他者の立場を尊重し、思いやりの心と協調性の精神、規範意識を高め、社会に貢献する意欲的な態度を育てることを目的とし、内容は次の通りとする。

ア 儀式的行事や集会等での講話を通して、全般的な指導を行う。

イ 生徒指導を通して、規範意識の育成を図る。

ウ 安全教育を通して、安全についての意識の育成を図る。

エ 就業体験を通して、適切な職業観の育成を図る。

オ キャリアガイダンスでの指導を通して、将来の職業的・社会的自立を図る。

② 特別活動

特別活動は、望ましい集団生活を通してそれぞれの生徒の人格の発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに人間としての生き方について自覚を深め、自己を生かす能力を養う。

ア 生徒の自発的活動を通して、自主的な生活態度や社会生活にふさわしい資質を育てる。

イ 集団生活の中で、一人一人の特色や個性を生かし、人間尊重の精神を育てる。

③ 自立活動

自立活動は、各教科等を合わせた指導であるキャリアガイダンス、その他の学習活動および体験活動を通して行う。心身の調和的発達の基礎を培うため、個々の生徒が自立を目指し、障害による学習上又生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び生活習慣を養う。

ア 日常生活を行うために必要な身体の状態の維持・改善に関すること。

イ 心理的な安定を図り、状況の理解と変化への対応に関すること。

ウ 自他の理解を深め、対人関係を円滑にした集団参加の基礎づくりに関すること。

エ 感覚を総合的に活用した周囲の状況把握に関すること。

オ 運動・動作の基本の習得及び改善に関すること。

カ 場や相手に応じたコミュニケーションの基礎的能力に関すること。

(4) 各教科等を合わせた指導の目標及び内容

キャリアガイダンス

道徳、自立活動のねらいや内容を含めて各教科等を合わせた指導として行う。

- ① 障害に基づく様々な困難を主体的に改善・克服するために必要な知識・習慣を養うとともに、就労に対する意欲や就労に関する知識や技能を身につけ、主体的に進路を選択する能力や態度を育てる。
- ② 生徒一人一人の特性を最大限に発揮させ、将来の職業的・社会的自立を図る。
- ③ 学校、職場におけるマナー、自分自身および他者の仕事や立場を理解した良好な人間関係を築くための表現能力・態度を育てる。

(5) 総合的な学習の時間

総合的な学習の時間においては、次のようなねらいをもって指導を行うものとする。

- ① 自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。
- ② 学び方やものの考え方を身につけ、問題の解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の在り方生き方を考えることができるようにする。
- ③ 各教科、道徳及び特別活動で身につけた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活に生かし、それらが総合的に働くようにする。

2. 生徒指導の重点

(1) 生活指導

生徒の生活実態の理解に努め、生徒の考え方や問題点及び課題を把握し、生徒との心のふれあいを通じた指導に努める。

- ① 自主的・自立的な生活態度を身につける。
- ② 日常の基本的な生活様式を理解し、習慣化を図る。
- ③ 人間関係の在り方、社会生活を営むための規律を理解し、健全な生活を営む態度を育てる。

(2) 性教育

人間尊重を指導の基盤とし「思春期における心身の発達と変化」「望ましい男女交際の在り方」「性的加害・被害の防止」「性・エイズ予防に関する指導」を中心に、学校教育活動及び日常生活での関わりの中で指導を行う。

- ① 日常生活の中から性教育に関する適切な題材を取り上げ、生徒が理解し自己の生活に活かせるように指導を深める。
- ② 保健や総合的な学習の時間及び家庭科、理科等の年間指導計画と関連づけて、計画的な性教育の指導を行う。
- ③ 保護者との緊密な連携のもとに効果的な指導を行う。

(3) 保健教育

自主的に健康な生活を実践する能力や態度の育成を図るため、学校の教育活動全体を通して、生徒の実態に応じた健康教育の充実に努める。

- ① 関連教科、道徳、特別活動等を通して健康な生活習慣の確立を図る。
- ② 学校環境を整備し、健康的な生活への理解、態度、習慣を養う。
- ③ 生徒一人一人の体力、健康状態の把握に努め、共通理解を図り、実態に応じた集団指導及び個別指導を行う。
- ④ 栄養や食事マナー等、望ましい食習慣の確立を図るとともに、食文化への理解を深める。
- ⑤ 生徒の健康観察に留意し、その状況を常に把握し、必要に応じ、養護教諭、担任、管理者、保護者と連絡をとるとともに学校医等の指導・助言を得て、健康管理に努める。

3. 安全教育の重点

安全教育は、安全な生活を実践する能力や態度の育成を図るために、警察署や消防署等外部の関係機関からの助言を得ながら、組織的、計画的、継続的に行う。

- (1) 登下校時および長期休業中等の安全指導を行うとともに交通ルール等の順守ができるよう、特に実践的指導に努める。
- (2) 就業体験、校外学習等の学習活動については、特に綿密な計画と事前指導を行うとともに、事後に反省会を持ち、事故防止の措置と指導を行う。
- (3) 機械操作や農薬等の取扱知識と保管について指導を徹底すると共に危険箇所の掲示や施錠、巡視等事故防止の措置と安全指導を行う。
- (4) 総合防災訓練等を計画的に実施し、非常時・災害時に迅速な対応ができるように指導を行う。

4. キャリア教育の重点

将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力を養う視点から教育を行う。実際の指導に際しては、学校教育活動全体を通して行い、生徒一人一人の能力・特性等を把握し、個別の教育支援計画をもとに個々の生徒の適性に応じた進路選択に努めるとともに、卒業後の社会生活に必要な能力や態度の育成を図る。

- (1) 生徒の職業に関する能力・適性等に応じ、進路希望等を的確に把握し、適切な進路指導に努める。
- (2) 生徒の実態について共通理解を深め、進路指導の計画・展開が適切に行われるように努める。
- (3) 公共職業安定所、障害者職業センター、事業所等の関係機関と密接な連携を図り、進路指導の充実に努める。
- (4) キャリアガイダンスの授業において継続的に指導を行う。
- (5) ホームルーム活動等において進路指導の時間を特設し、指導を強化する。
- (6) 保護者の理解と協力を深めるため、保護者面談、進路講話、就業体験の参観や事業所の見学等を計画的に実施する。
- (7) 就業体験の評価や反省を基に、生徒個々の課題を整理し、学校の教育活動全体に反映させ指導にあたる。
- (8) 進路に関する情報を収集し、生徒の職業に関する能力、適性及び希望に応じた職場開拓に努める。
- (9) 卒業後の進路に関する追指導に努め、就労の定着を図る。

5. 交流及び共同学習の重点

同年代の生徒や、地域社会の人々との交流活動を通して、相互の理解を深め、生活経験を広げるとともに、社会の一員としての自覚を促す。

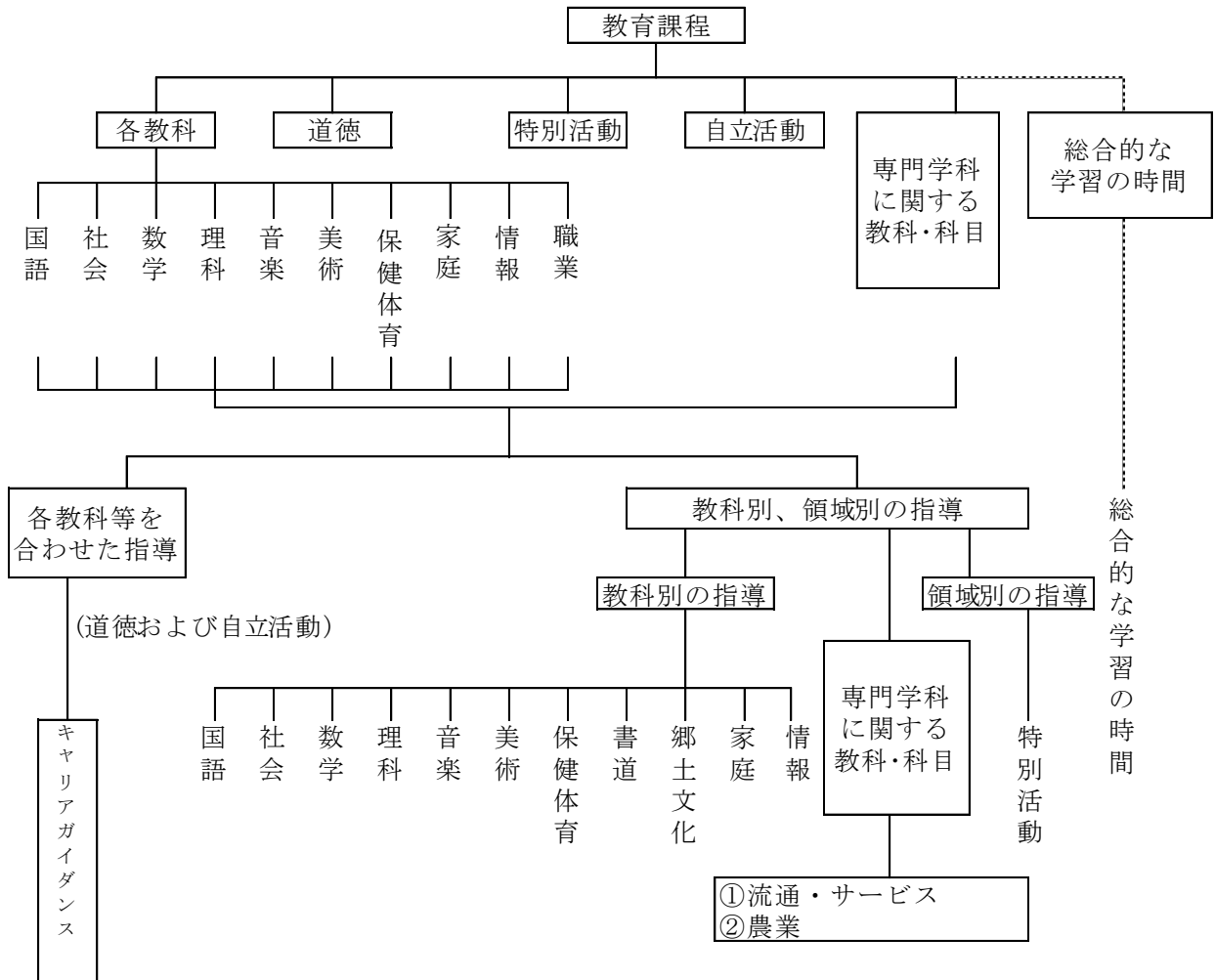
6. 指導形態

(1) 指導形態

指導形態については、「特別支援学校高等部学習指導要領」に基づき、生徒一人一人が社会自立に必要な知識、技能の習得及び望ましい習慣の形成を図るため、次の事項を配慮して編成する。

- ① 生徒の実態に応じて社会自立に必要な「基礎的・基本的指導事項」を精選して指導内容を能力別に編成し指導の充実に努める。
- ② 各教科等を合わせた指導「キャリアガイダンス」を設定し、各学年で履修する。
- ③ 「道徳」「自立活動」は特設せず、各教科等を合わせた指導の中で行う。

(2) 教育課程の構造図



沖縄高等特別支援学校南風原高等学校分教室

1. 努力目標

- (1) 日常生活に必要な基礎的な学習を習得すると共に、実態に応じた課題を克服する。
- (2) 職業的自立、社会的自立を目指し、必要な知識や技術を身に付ける。
- (3) 南風原高等学校の生徒との交流を通し、社会性を伸ばし地域の一員としての生きる力を育む。

2. 活動計画

- (1) 生徒の実態に応じた学習の設定。
- (2) 知識や技術、資格取得等に向けた授業の実施。
- (3) 南風原高等学校の学校行事や諸活動への積極的な参加。